

令和5年度 第7回 豊田市保見地域会議 会議録

開催日時	令和5年10月25日(水)	開会	閉会	
		午後7時	午後8時35分	
会場	保見交流館1階 多目的ホール			
出席者	地域会議委員：10人			
	会長：湯浅 進也	副会長：田中 治		
	委員：大城 一美	大羽 啓允	楓原 和子	倉知 朋範
	福岡 博之	船倉 茂久	山本 昭治	吉村 迅翔
欠席者	8名(加納 和茂 篠田 賢悟 竹崎 佐恵美 深見 浩司 藤田 パウロ 水嶋 淳 森岸 直幸 山田 貴啓)			
傍聴者	0名			
事務局	猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、岩村(苑)主査			
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊田市民の誓い(唱和) 2. 会長あいさつ 3. 「第9次豊田市総合計画」に関する諮問について 4. 新たな提言に向けた取組について 5. 令和5年度の地域課題解決事業について 6. 地域会議だより12月号について 7. わくわく事業現場確認について 8. 情報共有・事務連絡 			

■ 議事(要約)

3 「第9次豊田市総合計画」に関する諮問

前回の会議で諮問に関する説明及び意見交換会を受けて、提出された意見を事務局で整理した資料の内容を確認(資料2~5頁)

結論：(仮)ミライ構想のめざす姿及び(仮)ミライ構想のまちづくりの基本的な考え方については、特段の意見がないため答申書には具体的な記載はしない。

都市構造については、保見地区の個別事情を盛り込んでいく。まとめ方等は次回の会議で議論し決定する。

(主な意見)

■ (仮) ミライ構想のめざす姿

- ・「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」の「つくる」の部分は説明資料の中に説明がないが、どこに係ってくるのか。

- ・前回の説明だけではスローガンを理解できなかった。

⇒第8次総合計画の中では、「人と人、人と地域、自然とのつながりを深め、認め合い、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちをめざします。」という説明がなされている。このスローガンは第9次でも継承される。

■ (仮) ミライ構想のまちづくりの基本的な考え方

- ・意見と感想の違いは？感想は答申の中から消されていくのか。

⇒今日の会議はまとめ方を考える段階なので、まとめ方はそれぞれの地域会議で違っ

てもよい。皆さんの意見をどう届けていくかが大切であるので、必要なものは残していく。

- いろいろな意見を各委員から出してもらって、同類のものはまとめていく形を考えている。
- 文言一つ一つについて議論すべきか、市長が言ったように地域としてこれだけは外せないということを述べればいいのか。市が示した方向性に対して、保見地域会議のメンバーはどのような考えを持っているのかを問われているのではないかと考えている。
- 委員の意見はすでに提出済みなので、意見を精査して加除修正して進めてはどうか。
- 資料に記載されたまちづくりの考え方では、地域格差が生じるのでは。市民は生活に窮していて楽しむまちづくりという段階ではない。行政が支援しなければ団体の活動はどんどん萎縮していく。
- 逆に自分は、格差があるのは仕方がないと思っている。最低限の保障は必要だが、格差があっている。それらを地域ごとの特徴として、ネットワークによって補っていけばいい。
- ここは特に意見はなく、これで良いのでは。
- めざす姿は「持続可能なまちづくりの実現」と解釈しているが、どこを対象としているのか。定義をしっかりとしてほしい。
⇒SDGsの取組目標があり、市の計画もそれに沿っており、それぞれの内容が個別分野の施策でも取り入れられていく。総合計画は抽象的な位置づけであるが、「発想の転換」や「3つの変える」に対して特に違うという部分があれば意見をいただきたい。問題がなければ、出た意見を附帯意見として提出していく。

■都市構造

- 地方でも生活できるような最低限の商業施設が必要である。
- 保見地区に一つは拠点欲しい。
- 都市構造の項目3について、先月の会議での市長の回答を聞いて個人的には納得したが、地元のまちづくり委員会で報告したところ非常に憤慨していた。削除してほしい。
- 区長会長時代に市長と話し合う機会があり、その際、市長は区域が狭いから区画整理事業からは外すと言っていた。商業施設や文化・教育施設ができないという話はなかった。
- 浄水、梅坪の駅に比べれば八草駅は非常に狭いので、個人的には納得している。
- 総合計画上で拠点でなくなれば、各分野計画を作成する際にも意識されなくなってくる。
- どこまでの規模感の拠点が必要なのか理解できない。今をベースに発展できればいい。
- 名古屋市からの入り口としてリニモとの関係から、八草だけを都市計画に入れた。八草だけは税金が高い。将来の開発があるものとして住民は我慢してきた。その考えを覆されたら、納得できない。今頃、狭いからという理由で、外すのはおかしい。区民への説明・謝罪があっただけで済むべき。浄水や四郷よりも早く開発できたが、そのせいで様々な開発がストップしてきたため、山間地よりも遅れた中山間地となっ

ている。山間地のような支援もなく条例で規制されたため、発展できない。八草だけではなく保見地域全体の課題である。どこかに拠点を持ってこないと、外されっぱなしになる。

- ・拠点があるとネットワーク、道路網などの整備の在り方も変わってくる。行政の計画などにさまざまな影響があるのではないか。
- ・生活に困らなければ、特に拠点の必要性は感じない。
- ・50年後にどうなっているか分からないが、ここで生活する上で不便を感じるようでは困る。若者も住みやすいまちであって欲しい。
- ・行政として保見をどういうまちにしていくなかが書かれてあれば良いが、そうではないため自分たちで発信していく必要がある。そういったことを答申に盛り込んでいきたい。

4 新たな提言に向けた取組

健康づくりのアンケートに関する内容や進め方について事務局から報告（資料6・7頁）

5 令和5年度 地域課題解決事業

環境イベントの実施・アートを活用した啓発活動及び不法投棄防止対策の啓発活動について、進捗を事務局から報告（当日資料）

質疑：環境イベントの実施に際して委員の役割は何かあるのか。

回答：特になし。

質疑：こみ拾いイベントの集合場所はどこか。

回答：貝津町は貝津神社、篠原は篠原公民館である。

6 地域会議だより12月号（資料8・9頁）

結論：事務局案を承認

質疑等なし

7 わくわく事業現場確認

「保見ヶ丘支援センター」、「JUNTOS」の活動について訪問した委員から報告（資料10頁、当日資料）

8 情報共有・事務連絡

- ・JUNTOSの活動を通じた提案

子どもの権利の保障、子ども主体のイベントや居場所づくりを主に行っている。

西保見小学校の6年生の授業でファシリテーターとして入った際、子ども達が将来の保見地区の姿を考える様子を目の当たりにして、子ども達が持っている考える力やまちに対する意見が大切だと感じた。地域会議などに子ども達の意見が反映できると良いと思っている。

（次回の予定）

日時：令和5年11月22日（水） 午後7時から

場所：保見交流館1階 多目的ホール

内容：諮問答申の協議